

月夜三叉口に舟を泛ぶ
(高野蘭亭)

三叉 中断す 大江の 秋

明月 新たに 懸る 万里の 流

碧天に 向つて 玉笛を 吹かんと 欲すれば

浮雲 一片 扁舟に 落つ

三叉中断大江秋 明月新懸萬里流
欲向碧天吹玉笛 浮雲一片落扁舟

解説 明月の夜、隅田川の三ツ叉に舟を浮かべて月見をした
ときの作。

語釈 ※三叉口＝隅田川下流の、今の清洲橋付近の俗称。中
州があり、今戸川が落ち合い、水流が三つにわかれていたの
でいう。※中断＝真ん中を絶ち切る。※玉笛＝美しい笛。
※浮雲一片＝一片の浮雲。※扁舟＝小さな舟。

通釈 隅田の川口に近く、中州が川を分かち、今戸川も落ち
こむこの三叉のあたりには、秋の気配いが濃い。明るい月影
は真新しく天にかかって、万里の流れが遙々と見渡される。
青々と澄んだ空に向かつて、笛を吹こうとすると、天上から
一片の浮雲が、わが乗る小舟を迎えるかのように漂ってきた。